

登りであった。(記・)

「タイム」 栗子トンネル入口(二三)

四五) ↓左俣出合(二三・五五)

↓終了(一四・五〇)

# シン 沢左俣

L 六

一九八一年八月二九日

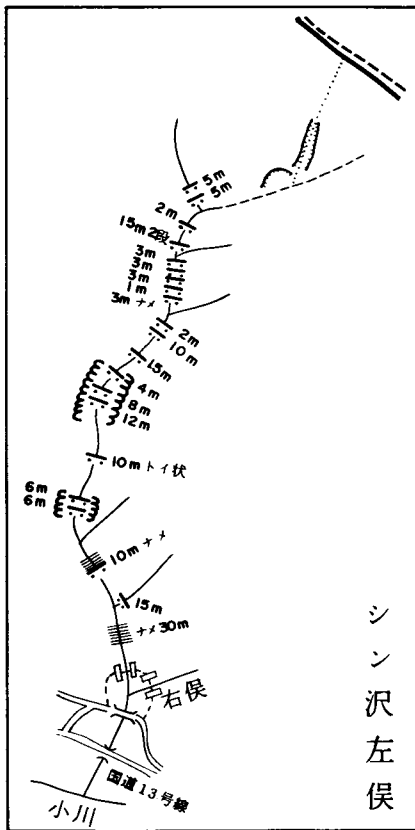
一四時三五分、下降開始。下降を始め一五分程でガリーになった。これを沢まで下る。沢に降りる所はスラブ状になっており、木を頼りに沢に降り立つ。

ガレ石や倒木に埋まった沢を下ると、二俣に出る。左の方には、五ヶ滝が二つある。この二俣になって、ようやく沢に水が出てきた。

二俣を過ぎると、すぐ滝が出てくる。一五ヶ二段の滝を除くと、あとは三ヶ程の小さなもので、すべてクライミングダウンでパス。

左岸より小沢が合流した先も滝が続く。F7四ヶは、右岸より木を

伝いながらのクライミングダウン。F6八ヶは、左岸よりトラバースして岩棚を下る。続くF5一二ヶは、そのまま草付きを降りた。しばらく下って、F4一〇ヶナメ滝。三段になった滝で、上部と下部が右岸よりにカーブしたトイ状の滝。「流しそうめんにしたら良い所じゃないか」などと話す。ここまでは、



シン 沢左俣

兩岸がV字状で花崗岩質であった。

ここより少し下ると、F3六段とF2六段が現れる。F3は直瀑で、左岸をヤマブドウのつるにつかまりながら降りる。その下のF2はナメ滝で、なんなく通過。

左岸より一五段の滝をかけて小沢が合流した。そしてそのすぐ先に橋ゲタが出てきた。地図にある橋ではないが、もう沢は終わりに近い。行動食を軽く腹にいれて歩き始める。今は橋脚だけとなってしまった、

一三号国道の一番古いルートにかかる名残の橋を過ぎると、すぐ二俣。すぐ右俣が合流。そして旧一三号国道の橋。一三号国道も目の前であ

## シン沢右俣

一九八二年六月二日

天気晴。一四時一五分、遊行開始。水量はぐっと少ない。この沢は、雪どけ時期や大雨のあと以外は、いつ

もわずかの流れでしかない。

右俣に入ると、すぐにナメ滝。どまん中を登る。その上の五段滝を越えると、一〇〇段ほどのナメが続く。沢幅が狭く、樹林の中なので、ナメ特有のそう快さは味わえない。

カモシカの足跡がいつばいついてる。どうも通り道になっているようだ。左岸に昔の炭焼き釜のあとを見る。

八段のコケいつばいの滝が出てき

